

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373500291		
法人名	社会福祉法人 長寿会		
事業所名	グループホーム いずみ山荘		
所在地	岡山県吉田郡鏡野町公保田73-2		
自己評価作成日	平成 24 年 12 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/33/index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373500291-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaizokensaku.jp/33/index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373500291-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25年 1月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の個人の尊厳とQOLを保ちながら、自宅での生活の様な環境づくりに努め「ゆったりと自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし」「自分らしさや誇りを保った暮らし」の実現をめざします。

【今年度の目標】

① 楽しく前向きに暮らす支援(ほめて認める。共感する。能力を引き出すケア。さりげない手助け。楽しいレク) ② 音楽を用いた取り組み・・・(潜在能力を引き出す。意欲低下防止。機能低下防止)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれ、山に囲まれた高台に立地しており、徒歩数分の場所に同法人の特別養護老人ホームがある。玄関に入ったところから家庭的な雰囲気にあふれており、リビングや中庭など利用者がくつろいで過ごせるように工夫されている。壁には利用者が作ったさおり織り等の作品を額に入れて飾っており、アーティスティックでおしゃれである。認知症の方へのリハビリの1つとして‘トーンチャイム’という楽器演奏に取り組みされており、集中力、協調性などを上手く引き出している。訪問当日にも利用者から意欲的に練習を開始し、ふるさとやちょうちん等いずみ山荘オリジナルの楽譜を見ながら演奏してくれた。澄んだ音色がとても心地よく、皆さんが楽しそうに演奏されていたのが印象的だった。また、地域の方々が積極的に関わって下さり、小中学校や保育園との交流、公民館での作品展示など色々な催し物を地域の協力を得ながら実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき安心して穏やかな日常生活が出来るよう日々の暮らしのなかで注意深く見守り家族とも密に連絡を取り合い必要があれば面会にきてもらう	施設の理念「穏やかにゆるやかに助け合っ て暮らします」を掲示し、職員への意識づけ を行っている。年度始めには職員会議で理念 を配布し、全員で再確認をしている。また、年 間のケア目標を作成しており、今年度は①楽 しく前向きに暮らす支援②音楽活動の取り組 みの2つを挙げ、積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	散歩や買い物、保育園、公民館活動に積極 的に参加する。 お祭りにも参加する。	地域の保育園との交流会や児童クラブへの 訪問、小、中学校との交流など地域の子も 達との交流が多い。また、地区のお祭りでは 事業所までだんじりが来てくれたり、事業所 での餅つき大会では地域の中学校のブラス バンド部の出演、町内、ボランティアの訪問も あり、地域住民との交流機会が多い。	利用者の皆さんによる「トーンチャイ ム」の演奏を聞き、利用者自らが楽し んでいる姿がとても印象的でした。地 域密着型施設合同交流会でお客さん の前で発表されたと伺いました。聞いて 頂く事で利用者にとっても励みや自 信になったとおもいます。今後もこう いった機会を設け、「トーンチャイム」 の効果を他事業所へも伝えて頂くこと を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	実習生の受け入れや推進委員会の集まり の時、認知症の理解や不安等、勉強会を開 いて協力を得ている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	事業所からの報告、参加者からの質問、意 見、要望を受けそれを基に現在取り組んで いる。内容を報告し意見を参考にする。	2ヶ月に1回開催している。参加者も多く、役 場の福祉課、地域包括支援センター、民生委 員、地区長、公民館館長、家族会代表等によ り行われている。年度初めに、日時やテーマ など年間スケジュールを参加者に提示してお り、参加者も分かりやすい。よりよいグルー プホームとは何だろうか、自分が入るとしたらど ういうグループホームがいいか等、意見交換 を行い、次年度の目標へとつなげている。	参加者も多く、参加される方の意識が 高い。福祉の勉強会としての役割も大 きく、地域の方への貢献度も高いもの となっている。今後も運営推進会議を 有効活用し、地域の方との連携をより 深めて頂くことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が行っている研修会に積極的に参加している。	鏡野町のバックアップ体制が充実している。地域包括支援センターや町主催の勉強会が多く、できるだけ職員が参加できるよう配慮している。また、分からないことがあればすぐに連絡し、相談ができる関係作りができてい	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げてその都度、全体で取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、勉強会や話し合いの機会を設けている。玄関の施錠はしていない。転倒の危険があるときにはベッドからタタミに変更したり、ベッド柵はショートタイプにしたりするなど、職員間で話し合い、できるだけ身体拘束をしないケアができるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを実施しそれに向けた意識のレベルを上げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で勉強している。 職員会議時に全職員に周知する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面接を行い、本人並びに家族の人の話を聞くことを時間をかけて行っている。 内容等も重要事項の文面を十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族に手紙を書き日々の様子、要望等を連絡出来る様にしている。	家族が面会に来た時には、状況を説明し意見や要望を聞いている。また、事業所から毎月、手紙を出し、利用者の日々の様子など知ってもらえるよう努めている。家族、利用者、職員による交流会もあり、年間の行事DVDを見たり、一緒に食事をしたりすることで、より親密な関係作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションが出来るよう、日々話し合いの場を設けている。月一回の職員会議の場を設けている。	月1回の職員会議、部署内会議や毎日のミーティングで随時意見交換をしている。また、年1回職員アンケートも実施しており、職員自身が自分の目標など記入する欄もある。毎月のお花見外出(ボタンや睡蓮など)や畑の活用など職員の意見を反映し、行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い研修等にも積極的に参加している。希望どおりの休みも可能にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加している。研修報告を職員会議で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内グループホームの交流会があり、他のグループホームの見学や、情報交換等行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で話をじっくり聞き納得がいくまで話し合いをもっている。施設の見学も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話し合い、事業所での考えを提案したり、いつでも連絡できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接時に本人や家族の思いを確認しながら繰り返すことで信頼関係を築き、そのなかでサービスを提供していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に得意な事は色々教えてもらったり手助けしてもらっている。 お互いにお礼の言葉が出る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の手紙を出すことにより、利用者さんの日常生活がわかり、お互いに協力関係が築け、来訪時にはスムーズに現状が把握できる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄使用していたタンスなどを持参したり、行きつけの美容院に行ったり、近隣の知人や友人の面会がある。	ふるさと訪問と題して同じ地域に住んでいた利用者2～3人グループで一緒に自宅に行ったり、地域をドライブしたりしている。馴染みの美容院へ行ったり、友人との手紙のやり取りを職員がお手伝いしたりしている。また、知人や友人の面会も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時には職員も一緒にテーブルにつき話をしながら食べている。 利用者同士が気まづくなっている場合は、間に入りわだかまりを取り除く。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同敷地内の施設に変わった場合は面会に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でひとり一人に声掛けを行い自分の意見が言えるような雰囲気作りをしている。 本人の意見を尊重し、その人のしたい事をしている。	入所前に本人や家族から、好きだったことや生まれ育った所、仕事等を聞き、生活歴を把握しているまた、日々の会話の中から、昔していたこと、得意だった事など聞き取り、レクリエーションやアクティビティに反映し活かしている。縫い物が得意だった利用者に対し手芸を取り入れたり、音楽をしていた利用者には音符を読んでもらう役割を持ってもらったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にそれまでの暮らしぶりや生活環境を把握している。わからないことが出てきた時は、本人に聞いたり、家族、ケアマネに相談する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別介護表に本人の状態や過ごし方等を記入し、朝、夕に引き継ぎを行い、全体にわかるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との関わり(外泊や面会等)の時に思いや意見を聞いたり、職員同士の話し合いの中で介護計画の見直しをしたりしている。	部署内会議の時に職員で話し合い、計画を作成している。今、出来ている事、できない事、今後やっていけば良い事等、意見交換をしている。また医療面で看護師や医師にアドバイスを受けている。また介護計画に添ってできているかどうかなど朝、夕のミーティングで情報共有をしている。	今年度より、利用者の皆さんに日記を書いてもらう取り組みを始めている。毎日15時頃、「今日は何日かな」「午前中は何をしたかな」など話をしながら書いている。日記帳を見せて頂くと一人一人の一日が分かりやすい。家族にも見て頂くことで利用者の状態を理解して頂くことに繋がり、喜ばれているとのこと。今後も継続して頂くことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入していて、いつでも全ての職員が確認出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は通院の時の付き添いを行ったり、誕生日会にはご家族に出席していただき一緒にお祝いしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来る様に、訪問理容、美容サービスを設けたり、書道、生け花、押し花等も行っていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医への受診、通院を行っている。必要に応じて付き添いもしており、様子や受診内容を知らせている。	入居時に本人や家族にかかりつけ医の希望を聞き、対応している。協力医療機関より週1回の往診がある。通院する際は看護師が付き添い、対応している。協力医療機関は協力的で24時間連絡、相談ができ、必要な場合は往診も実施してくれる。歯科も希望があれば往診があり、口腔ケアの指導もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から利用者の様子に気を付けており、体調変化の早期発見を心掛けている。気が付いた事があればすぐに看護職に相談、報告をし適切な処置を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、利用者の情報(支援方法や普段の様子)を病院へ知らせている。職員も3～5日おきには見舞いをして様子を伺っている。家族とも情報交換を行い、早く退院できるように援助している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意思をふまえ、職員や医師が連携をとり、安らかな、本人にとって納得した最期を迎える事が出来る様に、チームで話し合いをしながら取り組んでいます。本人、ご家族の意思は常に確認しています。	入居時に家族の希望を聞いているが、その都度状態を見ながら家族と相談し、意思を確認している。医師の協力体制もあり、できるだけ家族の希望に添った支援を行っていきたいと考えている。鏡野町主催のターミナルケアの勉強会が開催されており、受講した職員が事業所で報告をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時は緊急対応マニュアルがあり、時折確認しながら連絡の順番等を忘れないようにしている。応急手当等も勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルがあり、利用者と共に避難訓練を行っている。また、職員も消火器の使い方や緊急時の連絡方法等も定期的に訓練を受けている。	年に3回避難訓練を実施している。今年、地震想定の実践訓練を実施している。備蓄の水や食料も用意している。運営推進会議の後、避難訓練を実施し、地域の方に見てもらうことで、具体的な意見や協力体制等について話し合いが行われている。また、地域の消防団とのネットワークもできている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを大切に居室等プライバシーの保てる場所での援助を心掛けている。 利用者同士の中での不必要な詮索は避ける様、助言している。	本人の気持ちを最優先に考え、レクリエーションなども無理強いしないよう努めている。虐待防止委員会により、『適切な言葉かけについて』など勉強会を行い、職員の意識づけを図っている。個人情報保護についても随時、確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の飲み物も、その日によっては好みが変わるかも知れないので、その都度声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはだいたい決まっているが利用者の体調に配慮し、また気持ちもふまえて支援を行っている。イベントや外出にも参加してもらう。 入浴はくじ引きで行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、見守りや支援を行っている。利用者のその日に着たいものを聞きながら行っている。 また、季節にあった服、適切な枚数になるように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけを職員と利用者と一緒にやっている。また、利用者と一緒に作ったり、収穫した食材で作った料理が食卓に並ぶ事もある。	昨年9月より食事作りを業者に委託している。月に何回かは行事食として巻きずしや鍋料理、お好み焼き等利用者と一緒に手作りする機会を設けている。その際、みんなで食べたい物の案を出して、献立を決め、楽しんでいる。畑で採れた野菜を使い、調理することもある。	調理を委託しており、食事の盛り付けや後片付けをグループホームで行っている。手作り食の日も設けているが、通常の日もご飯やお味噌汁など簡単な物をグループホームで調理してはどうでしょうか。匂いは脳の刺激にもなり、食事への楽しみにつながると思われれます。検討して頂くことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとり一人の嗜好や食べやすさを考えた献立である。外部委託しており希望等の変更は反映されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の中には自分で歯磨き出来る方とそうでない方がいる。自分でできない方については毎食後、入れ歯を洗う等の介助を行っている。また、歯磨き用品の清潔も心掛け一日おきに消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子からトイレ介助を行っている。出ていなくてもトイレでしゃがんでもらう。必要に応じて紙パンツ、パットも使用している。利用者の自尊心を傷つけないよう心がけている。	排泄チェック表にて個々のパターンを把握しトイレへの声かけ等プライバシーに配慮している。パッドはケースに入れ、トイレに常備しており、パッドを持って出入りすることなくスムーズに交換できるように配慮している。水分摂取などにも注意し、排便チェックも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝はラジオ体操やテレビ体操を必ず行い体を動かしてもらっている。水分が不足しないようチェックしている。牛乳を飲んでもらっています。毎日、排便をチェックしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を聞いて行っています。全員の方が希望される事が多いので入浴の順番はくじ引きで決めています。体調等、考慮し入浴を中止していただくこともあります。	本人の希望に合わせて入浴の回数や時間等を配慮している。夏場は毎日入浴の方が多く、冬場は1日おきに入浴の方が多い。入浴剤や季節によってはゆず湯などを使って楽しんでもらえるようにしている。午後からの入浴し、入浴後はゆっくりと水戸黄門を見るというのが習慣となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に体を動かしていただく様、体操、散歩、食事の片付け等してもらい生活リズムが整う様にしています。安心して眠れるよう個人の好みで居室の電灯をつけたままにしたり、または豆球にしたりと環境も考えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ノートがあり、どんな薬を飲んでいるか職員が把握できるようになっています。毎食後、指定された時間には職員が本人に手渡し、服薬の様子を見守り確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な分野、できる事を把握しお願いできそうな仕事(洗濯干し、食器洗い、巻きずし等)をお願いしている。また、車での外出も行い気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に近所を散歩したり、外出の際、外食を楽しんでもらったりしている。外食もいろいろな料理が楽しめるように利用者の好みも聞きながら内容を決めている。	季節や本人の希望に合わせて行き先を考えたり、寒い時期、外に出れない時は施設内で日向ぼっこをしたりと色々工夫をしている。毎月、お花見外出としてポタンや睡蓮など見にいっている。また、天気のいい日にはドライブに出かけたり、近所を散歩したりして過ごすことも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持はせず、買い物外出などで使用しているが施設が立て替えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で電話を掛けたり家族からの電話も取り次いだりしています。 手紙は年賀状、暑中見舞いなど季節のものを作れるよう支援し送付しています。 郵便物は本人に渡し、受取簿に記入しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りを利用者と一緒に作り四季を感じる援助の一つにしています。 ゆったりと安定して座れる椅子を用意し好きな番組や音楽を視聴できるようにしています。	天井が高く、大きな窓からは山々を見渡すことができる。壁には利用者の作品を使い、季節感を考えた飾り付けをしている。自分の作品が飾られることで喜ばれる方も多い。リビングも家庭的な作りになっており、寒い時期は職員考案によるテーブルコタツを利用し、足元も温かく過ごす工夫をしている。中庭の空間も季節を感じる事ができる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には花を飾り、椅子を置いて天気のいい日には日向ぼっこができるようにしています。 ホールにソファがあり、そこでテレビを見たりくつろいだりすることができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家財道具(タンスや椅子等)が本人の希望で持ち込まれ使い慣れた物を使っている。 タンスやベットの配置など本人の好みや希望に合わせている。	窓が大きく、ベッドやクローゼット、洗面所が備え付けで用意され、清潔感のある部屋となっている。自宅で使っていた馴染みの家具や家族の写真、自分の作品など飾られており、それぞれ個性のある部屋となっている。タンスにはタオルやハンカチなど明記しており、利用者本人が整理できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて、手すりを増やしたり、自分の部屋がわかりやすいように目印をつけています。		